

## アワビの新しい放流方法について

これまで、牡蠣殻とともにアワビを放流していましたが、今年度から透明の板を使った放流方法に変更します。

### 変更理由

米ノ中間育成場では、黒いシェルターに張り付いたアワビを一つずつはがしていました。この方法では、はがすのに時間がかかったり、傷ついたりしてアワビが弱ることがありました。

また、カキ殻とともにアワビを放流していましたが、牡蠣殻からアワビが移動せず、タコなどの外敵に食べられやすいことがありました。

そこで、黒いシェルターに透明の板を張り付けてアワビを飼育し、張り付いたアワビごと透明の板を取り外すことで、アワビを取り外す時間が大幅に短縮され、アワビが弱らないようになります。

また放流は、アワビが張り付いた透明の板を海中に沈めることで、光を嫌うアワビが短時間で岩の隙間へ移動し、タコなどの外敵に食べられにくいようになります。

放流後に透明の板を回収する必要はありますが、放流直後の生き残りが大幅に改善されます。

# アワビの新しい放流方法

## 米ノ中間育成場での作業



黒い板と透明の板をとめているヒモを切断して、透明の板を取り外します。

1枚に50～100個のアワビが付いています。はずした透明の板は発砲スチロール（リンゴ箱）の容器に重ねて入れます。

容器には透明の板が5枚入ります。

## 各放流場所での作業

※透明の板から、30分後に7割、1時間半後に9割、翌日には、ほぼ全てのアワビが離れます。翌日に透明の板を回収してください。透明の板は来年も使用します。

## 潜水して放流する場合



透明の板を転石の間や岩盤の割れ目等に挟むようにして設置してください。

浮きやペットボトルをヒモで結んでおくなど回収できるように目印をつけてください。

## 船から放流する場合



透明の板をヒモで1～2枚ずつ取り付けて沈めてください。ヒモには、浮きを取り付けて回収できるようにしてください。

透明の板が海底に接しない、もしくは接する部分が少ないと、アワビが移動できない場合があります。透明の板が海藻の上にはのっからないように注意してください。

水深2～5m、転石が数多く、エサとなる海藻が良好に生育している場所に放流してください

< 参考 >

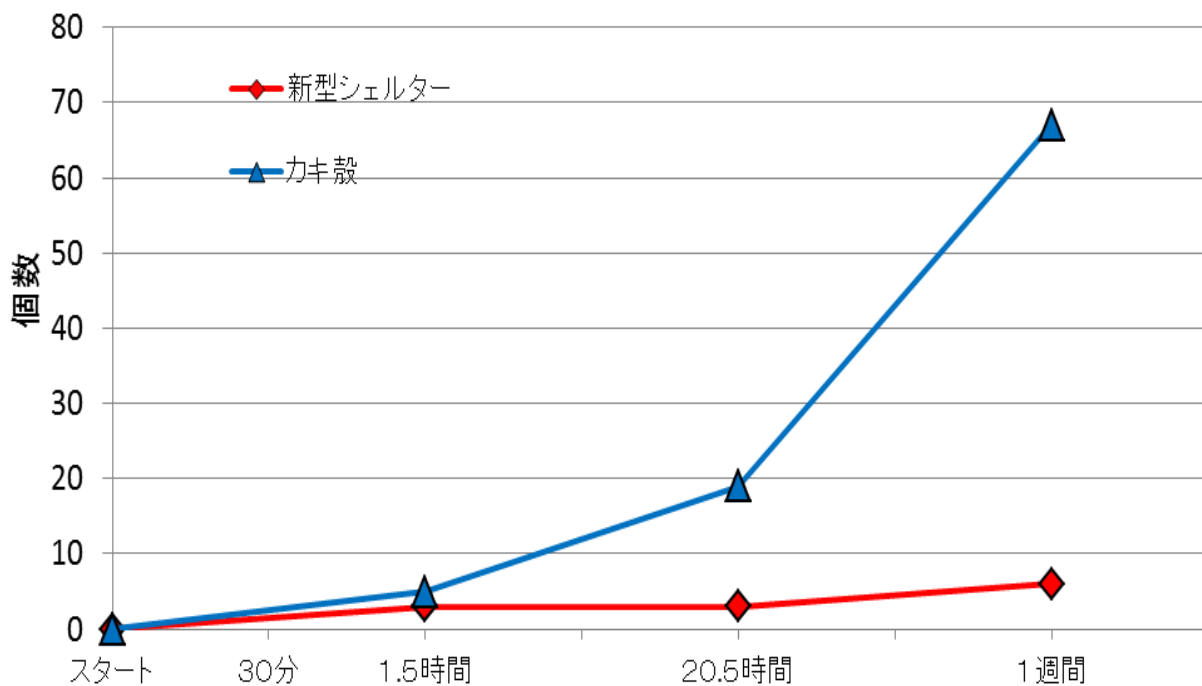


図 1 放流器別のアワビ累計死亡個体数

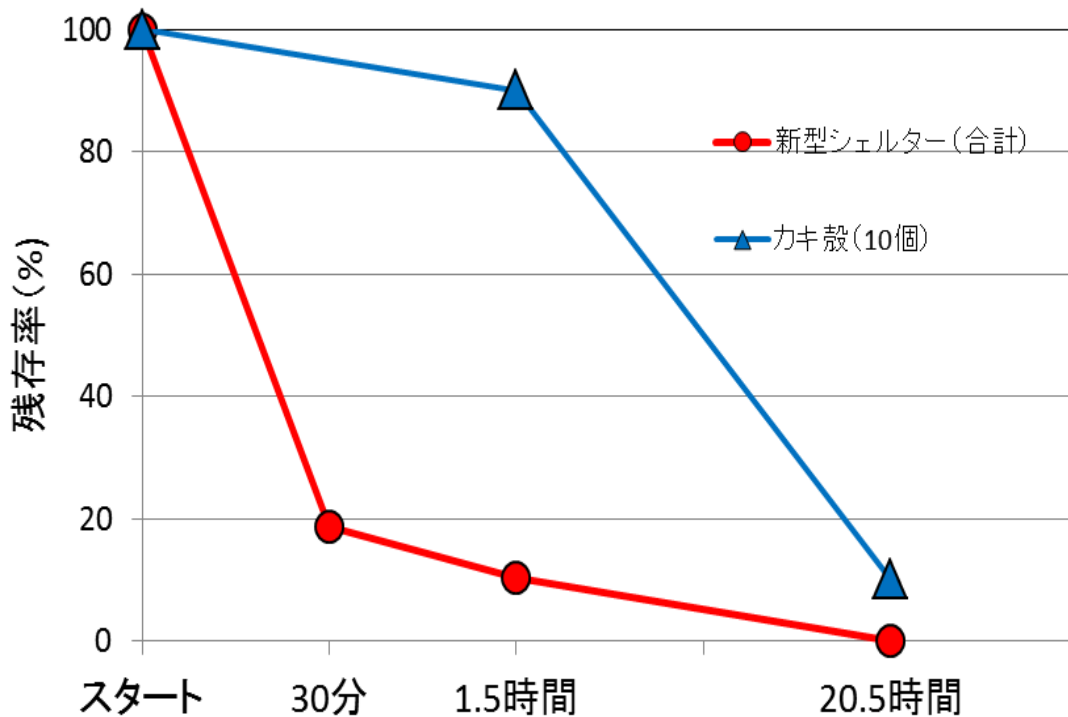


図 2 放流器別のアワビ移動結果